

(1)概要

日時	令和7年2月13日(木)13:30~15:00	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室)	
出席者	会長	山中 矢展(学校法人西大和学園 大和大学)
	副会長	富永 光昭(国立大学法人 大阪教育大学)
	委員	森本 朋美(寝屋川市立北小学校)
	委員	藤本 財久(寝屋川市立あかつき・ひばり園)
	委員	川橋 健太郎(グローバルコミュニティ株式会社)
	委員	白石 倫子(寝屋川支援学校 PTA 代表)
	校長	阪本 友輝
	准校長	荒木 聖
	事務局	
	事務部長	清水 紀行
	教頭	日置 節子
	教頭	東川 彩 (事務局長)
	統括首席	坂田 真一
	首席	亀村 尚希
	首席	安慶田 渉
	首席	西橋 聖次
	小学部主事	伊佐敷 香奈
	中学部主事	榎野 健太
	高等部主事	西村 真也
	進路指導主事	坂元 久美子

(2)議事録

内容
(1) 出席者(定数)確認【東川教頭】
(2) 校長挨拶【阪本校長】
(3)報告事項【東川教頭】
ア)学校教育自己診断について【亀村首席】
(4)協議及び提言【山中会長】
ア)令和 6 年度学校経営計画評価及び令和 7 年度学校経営計画について【校長・准校長】
(5)准校長挨拶【荒木准校長】
(6)事務連絡【東川教頭】

議事録

東川教頭	<p>(1)出席者(定数)確認 欠席 富永委員・森本委員 ＊記録の正確性を高めるため、機器による録音もしている。</p>
阪本校長	<p>(2)校長挨拶 今年度の終わりまで各学部の活動は残りわずか。 次第通りで進める。忌憚ないご意見を頂戴したい。</p>
亀村首席	<p>(3)報告事項 ア)学校教育自己診断について 資料に基づき説明 教職員向けのアンケートについて 実施時期 令和6年 10月28日～11月15日 実施方法 Google フォーム用いたアンケート調査 学校運営に必要な項目を厳選、回答者の負担軽減を考慮し、項目数を 11 項目削減。 回覧を回し、回答済の方はチェックをしてもらった。教職員の回答率は100%だった。 ほとんどの項目で肯定的評価が増加。全体平均は昨年度より9.5%増加 3項目が特に高評価 2項目に課題がみられる</p> <p>保護者に向けてのアンケートについて 実施時期 令和6年 11月1日～12月2日 実施方法 Google フォーム用いたアンケート調査 項目数を 4 項目削減 回答率が芳しくなく、締め切り日を伸ばし、アンケートのリンク先の QR コードを記載した文書を、紙媒体で配付。 全体的な結果としては昨年度と横ばいの印象</p> <p>課題2点 ① 学校のいじめ対応について…否定的意見より【わからない】の意見が多い。本校の今年度の重点目標としており、未然防止に努めている。 ② 進路について…教職員と保護者で評価に相違がみられる。高等部保護者は80パーセントが肯定的。小、中学部の保護者には進路や職業の取り組みについて</p>

	<p>職業として、学部間の交流を実施。</p> <p>(4)協議及び提言 ご意見・質問をお願いします。</p>
山中会長	
藤本委員	障がい児支援事業所の自己評価項目は、大項目 6 項目・小項目 53 項目に分かれ「はい・いいえ」と記述での回答となっているが、実施の大変さを感じている。学校の質問項目はどのように精査しているのか
山中会長	全体的な枠組みも変わってきているのか？項目数の変更の意図は？
亀村首席	項目については、府からの指示に基づいたもの、学校として知り得たいものを項目としてあげている。
阪本校長	昨年度の教職員の項目数が多かったのは、働き方改革の項目があったため。保護者と教員の項目を比較して現状を知れるような質問項目になっており、現状を把握できるようにしている。
川橋委員	進路や職業選択項目に、保護者と教職員で乖離。 小、中学部の保護者にとっては想像がしにくいので、評価が低いと捉えるのは厳しいのでは。すぐに進路選択が迫る高等部の保護者から8割超えの評価をもらっていることはよいのでは。
白石委員	保護者への連絡が遅いと教員が感じている理由は？ 小学部の保護者として、進路に関してはわからない。回答しやすい文言に学部ごとに変えてはどうか。 いじめに対しても以前から【わからない】の回答が多い。子供に聞いてもわからない。また、自分で訴えることが難しい児童・生徒もいる。 答えやすい質問内容、文言にしてほしいという要望。 自己診断の項目については、小学部の保護者については、進路についてわからないことが多い。情報公開をしていくことで、進路について学習していることがわかりやすい。
山中会長	保護者に対して情報開示が遅いと感じているのは具体的にどんなところか。
亀村首席	自由記述回答に記載があったが、詳しい文脈はわからない。
阪本校長	いじめについては、わかりやすい文言に変えていきたい。 進路については、学部ごとに見ているが、学校としてどうかという評価結果を公開する必要がある。要項を確認し、答えやすい内容の工夫ができるよう再

坂元進路指導主事	<p>考する。</p> <p>小、中学部で進路の評価が低いことへの対応として、進路部としては、毎学期末に【進路たより】を発行。また、職業バザールを実施。小学部児童が買い物、中学部は高等部の生徒と販売の体験をした。また、進路のてびきを全学部版に変更した。今年度より新たな取り組みとして2点、 ①事業所合同説明会・進路ガイダンス ②情報発信を行っていく</p>
藤本委員	<p>回答者数を教えてほしい。 教職員 150(全学部で) 保護者 219(施設・きょうだい関係含める)</p>
山中会長	<p>グーグルの利用等、工夫されているところは評価できる。 教職員回答率100パーセントは素晴らしい。</p>
阪本校長	<p>ア)令和6年学校経営計画評価及び令和7年度学校経営計画について ・資料に基づいて説明。 (小中学部)令和6年学校経営計画評価について 1-1ア概ね達成。 ICTについては、8割が目標だったが33%だった。 1-②カ いじめアンケート 内容については保護者に伝わりやすい文言にしていく。 3-②イ 業務の平準化 取り組みに差異があった。 3-②コ 評価としては低かった 高等部において地域支援に関わる要請がなかったため。達成できず。</p> <p>○(小中)次年度の計画 大きな目標を変えた。 ➡児童生徒だけではなく教職員にも意識できるような目標にしている。 ・意識しやすいようにキャッチフレーズの変更を行った。 1(1)ア「学びの実践化」という文言を追加する。 1(1)エ何を学ばせたいかを子どもたちにとって明確化する。そうすることで児童生徒の理解をより深められたら。 1(1)オ シラバスと教科書をリンク化する。 1(2)ア 当たり前に行っていることをほめる。また、それを継続する取り組みにしていきたい。 1(2)ウ ICT➡生成 AI を取り入れながら全体の底上げを図る。 1(2)エ今年度についても、50周年の取り組みを継続できるようにしていく。 3(2)オ泊学習について:児童生徒の安全な活動のため、カメラマンの派遣を実施する。</p>

<p>荒木准校長</p>	<p>3(3)ウ 大阪府全体で校務支援システムが更新された。今後、教務に関わる ところの業務等を同じシステムで一元化し、転勤しても同じシステムで業務を 行うことができる。</p> <p>4(1)昨年度から継続していく。</p> <p>(高等部)令和6年学校経営計画評価</p> <p>1(2)ア コース制での授業を実施。働くために力の構築をめざす。 バザールウィークでの実践的なコミュニケーションの向上を目指す。現在、来 場者にアンケートを実施しているが、現時点では肯定的な意見が9割である。 イ すべて達成している。生徒一人ひとりが進路選択を主体的に行えるように した。今後も続けていく。 進路実現については100%を達成することができた。</p> <p>ウ 学部間交流:50周年の取り組みで、清掃活動を実施。また、園芸の授業 で小学部との交流を実施した。関わり方を生徒自身で考えながら実施できた</p> <p>2(1)ア 懇談の場で保護者と共有した。前期が実施、後期でも実施予定。 生徒自身が振り返ることができるようキャリアチェックシートを実施</p> <p>(高等部)次年度の計画</p> <p>1(2)アイ 令和6年度と同様 ウ 令和6年度に記載があったが、削除 2(1)ア 新規で設定。 保護者が進路の情報を収集しやすくする動画を作成し、発信し、イメージしや すいようにしていく。また、福祉事業所合同説明会の拡充を図る。</p>
<p>阪本校長</p>	<p>小中学部の令和7年度の経営計画</p> <p>1(1)エ めあてをかかげて、児童生徒が意識していけるようにする。</p> <p>1(2)ア スクールワイドポジティブ行動支援という学校全体でポジティブ行動 支援を実施している学校がある。本校でも今年度より行動支援 PT を立ち上 げ、今年度中学部がメインで取り組んでいたが、全校的な広がりを図りたい。</p> <p>1(2)エ 50周年の盛り上がり、団結の継続を。 ねやがわレポリビューションを学期に1回以上はダンスしたい。</p> <p>(2)オ 多様性の観点を盛り込んでいる。</p> <p>(2)キ 児童生徒だけではなく、教職員の身も守れるような防災計画を作成す る。また、ヒヤリハットを集約し、全校的に教職員の意識を促していく。</p> <p>2(2)エ スクールボランティアを募集し、支援教育を広く知ってもらう。</p> <p>(3)ア デジタルサイネージで保護者向けに児童生徒や教職員の取り組みを 発信していく。</p>
<p>山中会長</p>	<p>質疑応答や感想があればお願いします。</p>

藤本委員	当園のストレスチェック結果は改善傾向だが十分ではなく、超勤時間数も減ってきているが更なる縮減が必要と思っている。働き方改革については、学校のいい取り組みを参考にしつつ、療育の質とのバランスを取りながら人材の確保・育成・定着を図っていききたい。
川橋委員	中学部の取り組みで外部講師として行っていた。例年通りの見直しという観点から今後取り組みを継続するにあたって、見直していききたい。
白石委員	<p>体を動かす大切さはわかる。教室が不足している現状。どう確保しているのか。</p> <p>ボランティアはどのような動きをしているのか</p> <p>PECS の活用があるが、卒業後の進路先で使用されずコミュニケーションが適切にとれず子どもが困ることも。</p>
西橋首席	ボランティアについては、これまでも募集はしていたが、チラシを新たにし、教職課程のある大学や地域にチラシを配布。
伊佐敷部主事	体を動かす場所の確保について、時間や場所の工夫をしながら確保に努める。
阪本校長	<p>PECSについて12月に事業所も加えて、勉強会を実施。</p> <p>事業所への広がり難しい。今後考えていくことも検討。</p> <p>支援ツールの一つとして捉える。</p> <p>プロジェクションマッピングについては、予算面も含めて実施方法を模索しているところである。</p>
山中会長	<p>学校教育自己診断は、よりよくしていくためのツール。</p> <p>内容が分かりやすく答えやすくするのが良い。</p> <p>限界があると思うが、工夫は必要。</p> <p>寝屋川支援学校の学校経営計画は見やすく分かりやすい。教職員が作成に携わっていることより、同僚性の高さをうかがえる。</p> <p>高等部ではキャリア教育について力を入れているのがわかる。小学部という土台も含めて、子供たちの自己実現ができるよう、学部連携して励んでいただきたい。</p>
荒木准校長	<p>(5)准校長挨拶</p> <p>ご参加ありがとうございました。貴重なご意見をいただいたので、それを踏まえてよりよい学校運営に努めていききたい。</p>

東川教頭	(6)事務連絡 時間の超過申し訳ありませんでした。また、今年度一年間、学校運営協議会へのご参加ありがとうございました。
------	--